

■モンゴルでの実践事例

モンゴルでマルチメディアDAISY図書の 楽しみを伝えたい

JICAウランバートル市における障害者の社会参加促進プロジェクト
磯部陽子

はじめに

このプロジェクトでは、モンゴルの障害者の社会参加促進を目指し、物理・情報アクセシビリティの改善や啓発活動などを行っています。

2017年6月、モンゴルでは初めて障害者の情報アクセシビリティに焦点を当てたセミナーを開催しました。来モ中の河村宏講師が、iPadを使ってマルチメディアDAISY図書を紹介したところ、少し日本語がわかるAさん（知的障害・24歳）が大喜び。

それ以降、わいわい文庫のマルチメディアDAISY図書を使って日本語を学習し、週1回、オフィスに来て、私に図書の感想を聞かせてくれるようになりました。

その様子から、モンゴル語版があれば、モンゴルの他の知的障害者も喜んで使ってくれるのでは？ と考え、マルチメディアDAISY図書のモンゴル語版を作成することにしました。



オフィスでマルチメディアDAISY図書を読む
ときの様子



感想を書いています。

モンゴル語版の作成

モンゴル語版のマルチメディアDAISY図書作成にあたっては、日本でDAISY研修を受けたゴンチゴさん（モンゴル視覚障害者協会の職員）が快く

引き受けてくれました。

1冊目の図書は、Aさんの大のお気に入り、「わいわい文庫」の中に収録されている『かさじぞう』（作・浜なつ子、絵・横山ようへい）に決定。

モンゴル語への翻訳は、私のモンゴル人アシスタントが担当し、音声は、優しい声のゴンチゴさんの友人に引き受けてもらいました。

協力のおかげで、2か月後、モンゴル語版初のマルチメディアDAISY絵本『かさじぞう』が完成しました。

つぎに、より重度の人々にも楽しんでもらえるよう、文字が少なく、絵が綺麗な『てんとてん』も作成しました。



モンゴル版絵本！
「かさじぞう」(右)と「てんとてん」(左)の
CD-ROM

出張上映会の開催

モンゴル語版絵本の障害者への貸し出しについて、プロジェクトのFacebookで広報したところ、障害児の親の会から、「上映してほしい」と依頼がきました。

そこで、16歳以上の知的障害者が

行っているふだんの活動にAさん、ゴンチゴさん、障害者施策を担当する省のガンボルドさん、私が訪問し、モンゴル語版『かさじぞう』の上映会を開催しました。

当日は、プロジェクターとスクリーンを使用して、大きな画面で『かさじぞう』をみんなで一緒に楽しみました。「モンゴルにもお正月があるよ!」と言う、嬉しそうな声が聞こえました。みんな、集中して見てくれました。

その後、Aさんが、ハイライトされる文字を読み上げ、いつもの使い方を実演。参加していた保護者から、「発音が良くなりそうですね!」といった意見もあり、とても誇らしそうでした。



マルチメディアDAISY図書のいつもの使い方を説明中

後日、出張上映会を知ったモンゴルダウン症協会のエルデネ会長から、ぜひうちの会もやって欲しいと連絡があり、ダウン症の青年7名に対し、2冊の図書を紹介しに行くことになりました。Aさんには、自己紹介とマルチメディア

DAISY図書の紹介、司会の練習もしてもらいました。

上映後、Aさんが、彼らに感想を聞いてみたところ、「おじいさんが傘のお礼をもらえました」などの声があり、とても良く理解してくれたことがわかりました。

エルデネ会長は、「新しい技術を知る機会はとても貴重」と述べ、他の知的障害児・者関連団体へも積極的に情報提供したいと話してくれました。



ダウン症協会「飛ぶチーム」の皆さん。
週に3回集まってお弁当配達事業の準備をしています。

今後の取り組み

つい先日、『はなさかじい』のモンゴル語版が完成しました。今後も要請があれば、出張上映会を開催したいと思っています。モンゴルではまだまだ新しい試みではありますが、少しでも楽しんでもらえるよう、可能性を探っていきたいと思っています。

<参考>

JICAプロジェクトのウェブサイト

<https://www.jica.go.jp/project/mongolia/015/index.html>

Facebook

<https://www.facebook.com/jicadpub/>